

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

333号

2018年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 10・4宣言11周年記念民族統一大会盛大に開催

今年10月5日、ピョンヤンで2007年10月に開催された盧武鉉大統領と朝鮮民主主義人民共和国の金正日国防委員長による南北首脳会談を記念する大会が、南北海外同胞が一堂に会して盛大に開かれた。南北と海外同胞が参加して10・4宣言を記念する共同行事は、2007年10月以来初めてのことだ。大会では共同アピール文が採択されるなど、今後、各界各層の多方面にわたる民間交流が活発になるものと思われる。簡単に今回の大会を振り返ってみる。

朝鮮中央通信は10月4日、10・4宣言発表11周年記念行事に参加する海外同胞代表団がピョンヤンに到着したと報じた。参加団体は在中圏朝鮮人総連合会、6・15海外側欧州地域委員会、6・15海外側日本地域委員会、6・15海外側カナダ地域委員会などがピョンヤン入りしたと伝えた。尚、今回米国側代表団は、朝鮮への渡航禁止措置で参加できなかった。

4月27日の歴史的な「板門店宣言」で、南北両首脳は朝鮮半島での戦争は今後決して起きないと言明した。さらに9月19日の南北首脳会談では「9月ピョンヤン共同宣言」を発表した。「9月ピョンヤン共同宣言」は4月の「板門店宣言」の具体的な実践方針が示された。特に南北両首脳が見守る中、南北の軍のトップによる「9月ピョンヤン共同宣言」履行のための軍事分野の合意書が交わされたことが、事実上の「終戦宣言」との評価を受けている。ピョンヤンでの首脳会談後、南北将官級会談が開催され、共同警備区域(JSA)の非武装化と地雷撤去が行われるなど急速に緊張緩和作業が進んでいる。今後さらに離散家族

再会と金剛山観光、開城工業団地稼働再開の実現に期待が高まっている。地方自治体間の交流やスポーツ交流などが頻繁になるなど、すでに南北の垣根を越えた民族同士の連帯感が生まれ、新時代を迎えていると実感できる昨今である。

しかし、今日の政府間接触が実現するまで、つまり李明博、朴槿恵政権時代の南北対決政策や韓米日が連携して軍事的緊張を高めていた時期に南北交流を行い、南北の平和統一を訴えてきた民間団体の運動が絶え間なく続けられてきた。厳しい



▲民族統一大会に参加した南北海外の代表  
左側2人目が孫亨根6・15海外側委員長

状況下で様々な迫害を受けながらも、民族自主と祖国の平和統一の大切さを訴えてきたことが、今の状況を実現するのに寄与したと評価できる。韓統連をはじめ6・15共同宣言実践南北海外共同委員会を中心に、朝鮮半島の自主的平和統一実現に向けた運動は今後も続けられるし、永く民族の歴史に残ることになるだろう。

「10・4宣言11周年記念民族統一大会」では共同アピール文が採択された。アピール文では最初に歴史的「板門店宣言」と「9月ピョンヤン共同宣言」は、6・15共同宣言と10・4宣言の輝かしい継承であるとし、以下の4項目を採択して全同胞に訴えた。

① 民族の運命は自らが決め、平和と繁栄の時代に向け継続して前進する。② 戦争の危機を完全に終息させ、核兵器と核の脅威のない平和地帯にする。③ 多方面の協力・交流・接触と往来で共同繁栄を築く。④ 全民族が心一つにして「板門店宣言」と「9月ピョンヤン共同宣言」を徹底して守り履行しよう。(注：2項目目の「核兵器」は朝鮮の核で、「核の脅威」は米国による朝鮮への威嚇を意味します) (鐵)

## 大人も子どもも焼肉を食べながら、 楽しい一時をすごす 2018年秋季野遊会

韓統連大阪本部主催による「2018年秋季野遊会」が10月7日(月)、淀川河川公園太子橋バーベキューエリア(大阪市旭区)で開かれた。

野遊会では、金隆司(キム・ユンシ)大阪本部代表委員が「久しぶりの野遊会です。今日は焼肉を食べながら、楽しい一時をすごしましょう」と乾杯挨拶を行った。



▲野遊会参加者と記念写真

その後、参加者は七輪を囲み焼肉を食べたり、ビールなどを飲みながら親睦と交流を深めるとともに、豪華賞品の獲得を目指してグループ対抗のゲームが行われ雰囲気を盛り上げた。そして最後に記念写真の撮影を行い、野遊会は終了した。

## 朝鮮半島の冷戦が終われば 朝鮮半島の核もなくすることができる 10・20反戦平和集会

朝鮮半島情勢が平和と繁栄に進んでいるにもかかわらず、安倍政権は憲法9条の改正をより推し進めようとする中、韓統連大阪本部も実行委員会に加盟している「10・20とめよう!戦争への道 めざそう!アジアの平和2018関西のつどい(主催:同実行委員会)」が10月20日(土)、エルシアター(大阪市中区)で開かれ、在日同胞、日本人など800余名が参加した。

つどいでは、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが主催者挨拶を行った後、沖縄前名護市長の稲嶺進さんとヘリ基地反対協議会共同代表の安次富浩さんから、沖縄知事選挙の結果と今後の展望について特別報告が行われ、稲嶺さんは

「沖縄知事選挙では玉城デニーさんが約8万票の大差をつけて勝利した。私たちは辺野古新基地建設を止め、勝利するまで絶対にあきらめない」と訴え、安次富さんは「知事選挙で惨敗したにもかかわらず、安倍政権は11月中にも辺野古新基地建設再開を強行しようとしている。必ず阻止しよう」と訴えた。

次に「米朝首脳会談と核兵器禁止条約」をテーマに、ICAN国際運営委員の川崎哲さんが講演を行った。川崎さんは講演を通じ「核兵器禁止条約は、それまでの核保有国中心の世界から、核を保有しない国が世界の中心になる大きな契機」と述べるとともに、「朝鮮半島の冷戦を終わらせれば、朝鮮半島の核もなくすることができる」と指摘した。

そして「核兵器を保有している北朝鮮と米国の核の傘に守られている韓国が、同時に核兵器禁止条約に加盟することが望ましい。そのことによって朝鮮半島だけでなく、東アジアの平和にもつながる」と訴えた。

講演後は、政党及び各団体からアピールが行われ、崔誠一(チェソンイル)韓統連大阪本部事務局長が「朝鮮半島情勢は、南北及び朝米首脳会談を通じて確実に平和と繁栄へと進んでいる。今後は平和と繁栄をより発展させて、朝鮮半島の平和統一を実現させよう」とアピールを行い、最後に戦争あかん、基地いらん、関西のつどい実行委員会代表の中北龍太郎さんが集会まとめを行い、つどいは終了した。



▲デモを通じ道行く人々に反戦平和を訴える

その後、参加者はデモ行進を行い、道行く人々に「憲法9条改悪を許すな!」「辺野古新基地建設反対!」などを訴えた。

## 私たちがなぜ愛国運動を 貫かねばならないのかを学ぶ 韓統連生野支部連続学習会

韓統連生野支部にて、金政夫(キム・チョンブ) 裴東湖記念研究所所長(韓統連前議長)の著書「歴史の意志を實踐する」を用いた2回目の学習会を10月14日(日)、同支部事務所で開いた。

「唯物弁証法と民族主義で読む『愛国論』の世界」という副題のついた今回の学習会では、私たちがなぜ愛国運動(自主・民主・統一運動)を貫かねばならないのかについて、本書の『歴史について』及び『民族について』の2項目に亘って綴られた内容をもとに、講師を務めた私(金昌範生野支部代表委員)が、おおよそ以下のように報告した。

① 在日同胞が日本社会で植えつけられた自虐史観から脱却するため、正しい民族史を学ぶ必要がある。②では、民族史とは何か?世界史をひも解き、さらにわが民族の歴史を振り返ると、民衆が自らの役割にふさわしい地位(真の意味での「平等」)を獲得しようとする闘いが歴史を発展させてきた(民衆史観)。③さらに、わが民族史において、社会の近代化と民衆が歴史の全面に登場する契機が作られたが、植民地支配がその流れを阻害した。植民地からの解放から祖国分断に至る歴史からも、「民族自主」という命題が、今も民族解放の根幹にある。④では「民族」とは?—「民族」は社会的な人間の最も基本的な存在形式であり、在日同胞もまた正しい民族観に到達し、民族主体意識を確立しながら、民族の新しい時代を切り開き、自らの尊厳を回復することができる。

アダム・スミス、マルクス、エンゲルスなどの人名も随所で飛び出した報告は盛りだくさんになり、参加者の抱いた感慨も様々だったようだ。

「民族矛盾と階級矛盾をどう整理すべきか」というテーマで討論が始まったかと思えば、「自分は生まれてこの方、民族劣等意識を抱いたことがない」と、本書との距離感にとまどう感想もあったりと、1回の学習会ではとても語り尽くせない豊富な要素が本書に込められている。もっと勉強を深めないと感じさせられた経験であった。

一方で、今回の参加者にとって「民族的に生き

る」という副題の次回3回目の学習会は、今回の学習会で得た問題意識や疑問を解決する上で非常に大切なものになると思う。

次回第3回(副題「民族的に生きる」)は11月18日(日)午前11時から、金隆司韓統連大阪本部代表委員を講師に招いて開催。今回の参加者のみならず沢山の方、ご参加お待ちしております。

## 子どもたちに映画を通じ、 平和と命の大切さを伝える いややねん戦争こどもまつり2018

韓統連生野支部が実行委員会に参加している「いややねん戦争こどもまつり2018(主催:同実行委員会)」が10月27日(土)、御幸森第2公園(大阪市生野区)で開かれた。



### ▲サムルノリを披露する韓青大阪府本部のメンバー

こどもまつりでは、最初に在日韓国青年同盟大阪府本部のメンバーによるサムルノリの演奏が発表された。続いて子どものだ自慢、手品などが披露された。

その後、子どもたちに分かりやすく自らの権利を理解してもらおうと子ども権利条約クイズが進行されるとともに、腹話術やエイサーと歌の発表などが行われ、子どもだけでなく、大人も楽しんだ。

会場では、韓統連生野支部のフランクフルトの出店をはじめビール・チヂミなどの出店が並び、こどもまつりの雰囲気盛り上げた。

こどもまつりの最後には「トビウオのぼうやはびょうきです」が上映され、子どもたちに水爆実験の恐ろしさと命の尊さを伝え、こどもまつりは終了した。

# 朝鮮学校高校無償化不当判決を許さない！

無償化連絡会・大阪事務局長 長崎由美子

大阪朝鮮学園が、日本国が大阪朝鮮高級学校を高校授業料無償化対象にするよう訴えていた裁判で、9月27日(木)大阪高裁は第1審判決を覆し、無償化除外は適法という不当判決を下しました。

今回、無償化連絡会・大阪事務局長である長崎由美子さんに依頼し、高裁判決の不当性などについて書いて頂きましたので掲載します。

9月27日、チマチョゴリの女生徒21名が並ぶ大阪高裁法廷で高橋讓裁判官は、こども達を見ることもなく「一審を全て破棄する」と言い渡した。

昨年、全国が歓喜した大阪地裁勝訴判決は高校無償化法からの適用条項への削除は、教育の機会均等を奪うもので違法。下村文科大臣の外交的理由での介入は裁量として認めない。朝鮮学校の歴史的経緯から朝鮮総連との関係は不適切とは言えない。自国の歴史を肯定的に学ぶことは民族教育として認められる。朝鮮学校の運営は人事、財政公開されており適正である、など子どもの学ぶ権利を認め、行政の差別を糺す司法の良心と言うべき判決だった。

勝利報告集会で女生徒が「やっと日本社会に存在が認められた」と喜びを語ったが、その同じ生徒が敗訴の法廷で肩を落とし涙をこらえている姿に胸をえぐられる思いだった。

大阪高裁不当判決には、地裁判決の子どもの学ぶ権利への目線も、教育へ国が介入する危険性の視点もなく、ただ国を勝たすために付度した判決だった。朝鮮総連との関係があり、適正に運営できるか疑わしいと地裁の判決を棄却した。大阪以外の広島、愛知、東京などの地裁判決が、高校無償化法からの朝鮮学校適用条項削除が違法かどうかを回避し、ただ朝鮮学校が適正な運営ができるか疑わしいとの理由をもって敗訴とした。

大阪地裁で朝鮮学校の真実の姿、卒業生、教員、

保護者の声を聞き下した、偏見のない判決と比較し、まるで法廷でヘイトスピーチを聞かされているようだった。南北首脳会談が3回も開催され、朝米首脳会談も開催された。和解と平和への動きに大きく舵が切られた。にもかかわらず、日本だけが朝鮮敵視政策を止めず、朝鮮学校差別を押し進めている。



▲大阪高裁に入廷する長崎由美子さん(向かって右側)

先日も神戸朝鮮高級学校生徒の修学旅行のお土産を、関西空港税関が取り上げ激しい怒りと抗議が殺到した。「大人が子どもの夢と希望を奪わない」。この当たり前のことが「北朝鮮」とつけばどんな罵声も差別もしていいと、政府自らが朝

鮮学校差別で示している。

京都朝鮮学校への在特会ヘイトスピーチは最高裁で断罪された。しかしなぜ国がする官製ヘイトである無償化排除は司法で断罪されないのか。三権分立の司法独立がない国に民主主義はない。そして今回、国が教育基本法をもって朝鮮学校への差別を正当化した危険を訴えたい。

かつての日本が皇国臣民教育により軍国主義と戦争への道を歩んだ反省から、国が教育に介入することを不当な支配と諫めたのだ。民族団体が民族学校に関わることを不当な支配とは、法をねじ曲げている。国に都合の悪い教育をしている学校への弾圧差別を許せば戦争へ道を開くことになる。チマチョゴリの生徒の笑顔を守り、共に生きる社会を作ろう。

## コラム

# 箕子東來說について

いわゆる古朝鮮は、檀君朝鮮、箕子朝鮮、衛氏朝鮮の三王朝を指す総称だ。このうち檀君朝鮮と箕子朝鮮の国祖である檀君と箕子は、朝鮮王朝時代、各地で祭祀が行われ尊崇を受けてきた。そして近代になってからも檀君は、大倂教（檀君教）の創始、檀君紀元の作成、開天節（10月3日、檀君朝鮮の建国日）の祭日指定、近年では檀君陵の整備事業など、多くの人に敬意を払われる存在となっている。

一方で、箕子は檀君ほど取り上げられることはなかった。むしろ儒教偏重、事大主義の名残りとして批判を受けている。

しかし、箕子が朝鮮に渡り建国した伝説（箕子東來說）が、古くから我が国の自己認識に影響を及ぼしてきたのも確かだ。ここで箕子東來說について軽く触れてみたい。

「箕子」とは本名ではなく称号だ。箕国（中国山西省太谷付近）に封じられたために、そう呼ばれた。『史記』の注釈では「箕は国名。子は爵なり」とある。「箕の王子」「箕の君」といったところか。姓は不明で、名は胥余とされる。

箕子は古代中国の殷（商）王朝の王族にして政治家だった。殷の最後の王である紂王の叔父であり、滅びゆく殷を支え続けたが、王に諫言を容れられず隠棲した。これらに述べられた箕子は、おそらく実在した人物だと考えられる。

箕子東來說はこれ以降の記述から始まる。周の武王が殷を滅ぼした後、箕子を訪ね、天下の常理について質問したところ「洪範九疇（鴻範九等）」と呼ばれる治世の九原則を滔々と語り、これを聞いた武王は箕子を朝鮮に封じて、周の臣下としなかった。そして箕子は朝鮮に渡り、民に礼儀、田蚕（でんさん）、織物を教え、犯してはならない八条の法を定めたと『史記』および『漢書』に記されている。

この中国側の史書から発せられた箕子東來說は、

高麗や朝鮮王朝で全面的に受け入れられた。箕子が周の臣下にならなかったということは、箕子朝鮮は独立した国である。また、箕子は古代の帝王の政道を識る聖人である。つまり箕子朝鮮は、孔子が儒教を説き始める以前に、堯舜（ぎょうしゅん）から連なる治国の大法がすでに伝えられた国といえる。これにより箕子朝鮮の故地を継承する高麗・朝鮮王朝は、国家の独自性と儒学における正統性を主張する根拠を得ることができた。

この伝説に合わせて箕子の廟（びょう）も整備された。箕子朝鮮の都とされる平壤には、箕子廟

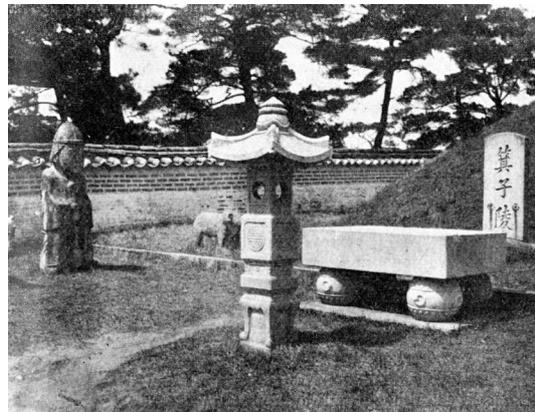
が檀君廟、東明王（高句麗朱蒙）廟と並んで建てられた。また箕子の墓陵もあわせて作られ、毎年春と秋に祭祀が行われた。無論、本物の箕子の墓陵ではない。箕子を祀るべく高麗時代に作られた記念碑的な衣冠塚だ。

しかし如何しようとも、箕子東來說はやはり信じがたい話だ。現在の韓国の歴史学では、箕子東來說は箕子という個人が移住

したものではなく、古代中国の「箕」と称する氏族集団が、東方の灤河～遼河流域に移動した史実を反映したものと考えられている。そもそも箕子東來說は秦漢以後に突然現れた伝説であり、『史記』作者である司馬遷も怪しく思ったのか、同書の「朝鮮列伝」では箕子に関する言及が一切無い。

また中国河南省商丘には「箕子の墓」と古くから指摘されている塚が存在する。商丘は殷が滅びた後、周によって殷の王族が封じられた地である。

箕子東來說はあくまで架空の伝説に過ぎない。かつて箕子陵があった場所は、現在のピョンヤン地下鉄千里馬線の凱旋駅から東南方向、凱旋門から金日成競技場を東に見上げて右に広がる牡丹峰の山林の中にある。発掘調査の結果、古代の遺物は何ら見当たらなかったと言う。しかし、その地に伝説が存在し、人々の尊崇を集めていたこともまた事実である。（好）



▲かつての箕子陵

